

2018 年 12 月 14 日

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也 様

日本ジオパーク委員会調査運営部会
部会長 宮原 育子

第 3 回日本ジオパーク委員会調査運営部会評価結果

2018 年 12 月 14 日に開催した第 3 回日本ジオパーク委員会調査運営部会において、日本ジオパーク再認定審査について、下記のとおり評価しましたので、ご報告いたします。

記

八峰白神ジオパーク	再認定
霧島ジオパーク	再認定
南紀熊野ジオパーク	再認定
立山黒部ジオパーク	条件付き再認定
天草ジオパーク	条件付き再認定
苗場山麓ジオパーク	再認定

以上

ジオパーク名 (構成市町村)	前回 結果	前回の審査の主な指摘事項	対応 状況	今回の審査結果		今回 結果
				主な評価点	改善を求める点	
天草 (熊本県天草市、上天草市、苓北町)	2014年新規	1)白亜系、古第三系の地形・地層、構造、化石、石炭、変成岩などのサイトの検討・選定。 2)看板の設置を通じたビジビリティの向上 3)エリア全体を紹介するガイドの育成 4)ジュニアガイドの継続とその活動の普及	△	1) 2市1町によるジオパーク活動の事業や運営などに積極的に取り組んでいる 2) 推進協議会への多様な団体の参画による各種取り組みの協力及び推進 3) テーマと5つの要素を用いた取り組みについて各地域における多様な活動の推進 4) ジオサイトの定期的な見直しと、明確な選定・管理基準の設定 5) 御所浦地域における継続性のある高い教育プログラムの展開	1) ジオパーク全体にわたる一体的な連携と取り組みの強化及び推進 2) ジオパークの「テーマ」や「ストーリー」を意識したツアーの実施、及びツーリズム活動の推進とガイド育成（前回からの継続） 3) ジオパーク内における教育活動の拡充に向けた取り組み 4) 地形地質遺産(見どころ) 全体を網羅した保全管理体制の計画や戦略の策定 5) 古生物学以外の研究支援等の積極的導入	△
八峰白神 (秋田県八峰町)	2016年再	1)テーマとストーリーの明確化 2)ジオサイトの見直しと再編 3)科学的裏付けの確保 4)運営体制 5)ジオパークの可視化およびジオサイトへの誘導看板類の再整備 6)拠点施設の充実 7)ツーリズムの整理 8)ガイドのスキルアップ 9)教育活動 10)国際対応 11)ネットワーク活動 12)防災・安全	一部未達成	1)拠点施設ぶなっこランドにおいて、ジオパークに関する展示の整備拡充が実施された 2)ブナ林などの生態系と地すべり地形の関係を絡めたジオツアーが実施されている 3)教員を対象にしたジオパークの研修、コミュニティ・スクールへのジオパーク関係者の参加など教育での取り組みが進んだ 4)既存のエコ・グリーン・ブルーの3ツアーと連携してジオツアーが実施され、自然保護を観光に結びつけている 5)管理運営体制の改革を推進協議会運営委員会において決議するなど、問題解決に向けた運営体制の改善を開始した。	1)ジオパークのテーマとストーリーについて関係者相互の考え方の集約 2)看板、出版物などでジオパークの可視性の向上 3)保全部会の設置など、ジオサイトの保全・保護対策の強化 4)新体制下での運営体制の検討 5)4つのツーリズムの融和の促進 6)地質学だけではなく、ジオパークの価値を上げる学術研究の推進 7)地元産品販売の促進 8)津波以外も考慮した防災教育	○
南紀熊野 (和歌山県新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、奈良県十津川村)	2014年新規	1)印刷物、WebサイトやSNSなどを用いた情報発信の強化 ツーリズムの導線づくり、ビジビリティの向上 2)モニタリング(サイトの保全や利用客数) 3)持続可能な組織、自治体と協議会事務局の情報共有の強化 4)学術情報を共有と積極的活用の仕組み作り 5)ジオパークという仕組みの教育への活用 6)海岸のサイトを安全に楽しめる工夫 7)ガイドの会活動を上手に支えて 8)歴史文化と地学的資源をつなげて活用 9)国際化対応の経験を共有 10)他地域とのさらなる連携	概ね良好	1)住民活動の活性化を支援する運営 2)保全の進捗 3)活発な研究支援 4)ジオパーク教材の開発と配布、野外教育 5)学術支援の強化 6)自立的に活動するジオパークガイドによるツーリズム商品開発の動き	1)運営体制強化 2)基本計画の見直し 3)保全計画の作成 4)持続可能な観光のためのマーケティング戦略 5)モニタリングの強化(教育、ツーリズム) 6)可視性のさらなる向上 7)ジオパーク以外が設置した解説板の更新 8)各種自然文化遺産の一体的な保全と活用 9)学校教材のブラッシュアップ、活用法の普及 10)パートナーシップ協定(基準を明確に) 11)地域防災人材の強化	○
苗場山麓 (新潟県津南町、長野県栄村)	2014年新規	1)ジオストーリーの改善(歴史文化などの取り込み)及びストーリーを作る仕組み作り 2)栄村を対象とした運営体制の強化(専門員の雇用) 3)ネットワーク活動への実質的な参加 4)ガイドの質の向上 5)ビジビリティの向上(看板整備やweb、印刷物を含む) 6)防災教育の充実化 7)地域住民に対するGPの認知度の向上 8)拠点施設の整備とジオツアーの整備	概ね良好	1)運営体制の強化 2)教育活動の進展 3)専門家の確保(地学・生態学) 4)ジオガイドの成長 5)民間事業者、コミュニティの参画 6)防災教育の強化 7)拠点施設の整備とジオツアーの整備	1)プロモーションの強化 2)ジオガイドの拠点整備 3)可視性の向上 4)行政界を意識しないジオパーク作り 5)事務局の継続した運営体制の構築と強化 6)学術団体との関係構築 7)気候変動を語るジオストーリー作り 8)文化遺産、無形遺産の目録作りと活用 9)持続可能な観光のためのマーケティング戦略 10)パートナーシップ協定(基準を明確に) 11)地域防災教育の強化	○
霧島 (鹿児島県霧島市、曾於市、宮崎県都城市、高原町、小林市、えびの市)	2014年再	1)アクセスの改善(ツアーバスの整備など) 2)郷土史家等と連携した神社、産業、歴史・文化を反映したジオストーリー作り 3)環境省の看板へのロゴ掲出(看板類の修正を含む) 4)ガイド養成講座のカリキュラム整備 5)構成自治体間の温度差の解消 6)協議会と活性化会議の連携と役割分担の明確化の成果 7)ジオパーク教育の円滑な実施	概ね良好	1)JGN全国大会誘致による意識向上及び活動の活発化が顕著である 2)地元企業による自発的なジオ関連の活動が活発である 3)市民主体での新サイト候補の整備と掘起しがされている 4)霧島ジオパークエバーサルゲザインフォーラムのツーリズムへの先駆的な取り組みが行われている 5)霧島連山の度重なる火山活動に対する対応がされている 6)地元企業や国機関とのパートナーシップの構築が進んでいる 7)火山や防災減災に関する教育や九州ジオパークでの子どもの教育交流事業が推進されている	1)領域拡大に伴う基本計画の見直し、運営体制の検討と構成市町の連携強化 2)領域拡大後のサイトリストの再整備と新たな資源の位置付け 3)専門部会の活発な運用と、学術委員会への幅広い分野の専門家の参画と実働 4)マーケティング戦略の策定・実施と、ガイドツーリズムの再検討 5)火山防災対策のジオパークの共有と活用、ネットワークへの貢献	○
立山黒部 (富山県富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町)	2014年再	1)民間主導の運営体制を活用した地域活動のGP活動への取り込み 2)協会と自治体との関係整理(持続可能な運営体制づくり) 3)専門員や学芸員の提案や能力を活かす機会の造成 4)顧客やコースの多様性に対応したガイド体制づくり 5)新幹線の駅や拠点施設におけるジオパークの情報発信の強化(博物館等のジオパーク活動への参画) 6)モデルコースの設置とそのツアーに気軽に申し込める仕組みや案内の設置 7)主なジオサイト(先カンブリア紀～日本海の時代のものを含む)の整備 8)自治体と連携した学校教育・生涯学習活動	△	1)民間企業が自発的にジオパークを活用した地域振興や環境教育活動を推進 2)地域住民が保全してきた地質遺産を、ジオパーク活動が評価、協定を結んだ 3)拠点施設やそのスタッフ(学芸員)、大学の研究者がジオパーク活動に協力的 4)滑川市教委発行の副読本や、「通称”攻略本”」等の優れたマテリアル 5)「可視化コンセプト 看板作成ガイドライン」の策定 6)「新川ジオさんぽ」がもたらした地域住民の変化	1)ジオパークの理念や目的を関係者が共有すべき 2)環境省や富山県とジオパーク活動の関わりを明確にし、国立公園や県立公園内のサイトの保全の在り方を明確にすべき 3)地域の主な観光ルート上に、ジオパークの看板類をもっと設置すべき 4)教育活動を含む、ジオパーク活動への関わり方について、支援自治体間の足並みをそろえること 5)地域住民が参画した活動をもっと増やすこと 6)地質を含め、学術に偏っている今のマテリアルやジオガイドの内容を、一般の人が馴染めるものにすること 7)既存の地域産品に関するストーリーをつくること	△